

若者は海原に消えた

以前からずーっと気になっている若者がいる。と言つても現存の人物ではなく歴史上の人物である。彼の名は平維盛、栄華を極めた平清盛の嫡孫である。この男、光源氏の再来と言われるほどのイケメン貴公子であり、名実ともに平家の将来を担うエースであった。

彼は源頼朝など源氏の間々が蜂起すると、追討軍の大將軍として出陣する。ところが富士川の合戦では水鳥の羽音に驚いて敗走し、木曾義仲の討伐に出かけた北陸路では、倶利伽羅峠で夜襲を受け壊滅的敗北を喫する。後世の物語によつてその敗北がドラマチックに脚色されたきらいはあるが、武人としての彼の経歴は芳しくない。

その後、一の谷から屋島の戦いの過程で、この若者はこともあろうくに敵前逃亡し高野山に逃げ込んでしまう。壇ノ浦で義経に肉迫した能登守教経や、泰然として入水した新

中納言知盛など平家一門の雄姿を見るにつけ、維盛の異常な行動には驚かされる。

更に彼は得度して那智勝浦の浜から補陀落渡海に挑む。補陀落渡海は海の彼方にある観音様の住む補陀落山に向かうべく、小屋を乗せた小さな船に乗り、わずかな食料と水を乗せ大海原を漂う行である。ただ小屋は中から開かないように固く閉じられ、生還する当てのない捨身行である。時に寿永3年、維盛25歳の春であった。

宮廷サロンのスターから始まり、敵前逃亡から補陀落渡海という名の入水自殺に至る彼の生涯は、滅びゆく者の儂さを象徴しているように思える。それにしても彼の行動には謎が多い。未だ滅亡が決まったわけではないのに、何故戦線を離脱したのか？死に赴く手段として補陀落渡海を選んだのはなぜか？いつの日かこの若者の揺れ動く心のひだに分け入ってみたいと思う。